

NEW まちの活性化を担う 道の駅 いながわ

～気になることを 聞いてきた～



花城 直子

いながわ 特派員報告



鈴木 タ子



▲産業観光課 まち活性化推進室 坂ノ上室長

あけましておめでとうございます。令和最初のお正月ですね。そんな新時代に、「道の駅いながわ」の移転計画があると聞き、気になる事をまち活性化推進室長 坂ノ上さん（以下室長）に聞いてきました。

▶問合せ 産業観光課 まち活性化推進室（☎ 768 - 6016）

年間 4,650 万円で 機能充実！

特派員 でも、多額の費用が必要になりますよね？

室長 確かに新たな道の駅いながわの整備は、決して安価でできるわけではありません。そのため今回のプロジェクトは、民間事業者の資金とノウハウを活用する「PFI手法」を用いて実施します。資金調達から施設整備・運営までを全て民間事業者が行い、集客と利益を上げるような仕組みを考えています。この手法により、本来、町は施設整備費として37.38億円必要なところを、事業者から賃料などとして28.08億円支払われる計画のため、町の実質負担額は9.3億円となります。

特派員 9.3億円!? 想像もつかない金額ですね。

室長 そのように感じる人も多いと思いますが、町は事業期間である20年間に分けてこの額を支払いますので、1年間あたりの支出は、およそ4,650万円となります。大きな額ではありますが、これにより今よりも機能が充実した魅力的な道の駅ができる計画です。

特派員 このプロジェクトによって、住民の私たちに追加徴収などはないんですか？

室長 このほかに土地を5.65億円で購入しますが、土地代も含め、このプロジェクトに伴って住民の皆様には新たな負担をお願いすることは一切ありません。

町の活性化に向けて…

特派員 坂ノ上さん、「道の駅いながわ」が移転すると聞いたのですが？

室長 道の駅いながわは、平成12年のオープンから今年で20年を迎えます。建物の老朽化による修繕箇所が増加や、敷地の不足により新たな施設の設置や駐車場の増設に対応できないなど、多くの課題を抱えています。

また、その他にも理由があります。お二人は20年・30年後の猪名川町について考えたことはありますか？ 今、全国的に人口は減少傾向で、このまま何もしなければ町の人口が3万人を割り込む日も近いと予想されており、町が衰退してしまうことも考えられます。

そこで、まちに活気を生むために、「道の駅機能拡大プロジェクト」を進めています。



NEW 「道の駅いながわ」

- ◆子育て支援センター
- ◆カフェ＆飲食施設
- ◆物販サービス施設
- ◆そば加工販売施設
- ◆地域商品等販売施設（農産物直売所など）
- ◆特産品開発加工施設
- ◆観光案内所 など



駐車場拡大 & バスも便利に！

特派員 でも、土・日は渋滞が心配です…。

室長 渋滞対策として、現在の道の駅の約5倍の駐車スペースや専用レーンを設け、敷地内にも十分な車の進入路を設けます。また、バスロータリーも設置し、阪急バスとふれあいバスの結節点としてバスの乗り継ぎが便利になるよう考えていますので、車に乗らない方にも是非お越しいただきたいです。

また、現在の道の駅ではイベント開催時でも交通の混雑などを考えて、ほとんど告知をしていませんが、新たな道の駅は積極的に町内外へPRし、多くの人で賑わう場所にしたいと考えています。

町の未来のために…

特派員 オープンはいつ頃ですか？

室長 令和4年度から造成・建築工事を行い、令和5年度中のオープンを目指しています。

オープン後は、農家の皆さんの売り上げの増加についても大いに期待していますし、住民の皆さんはもちろん、町外の方にとっても憩いの場となります。道の駅から猪名川町の魅力を発信し、まちの活性化を担う重要拠点にしたいですね。

特派員 想いの詰まったプロジェクトなんですね。

室長 プロジェクトの実現のためには費用もかかりますが、これらを町の「負担」と捉えるのではなく、「未来への投資」と捉えて事業を進めているんです。

特派員 子どもたちが大人になった時に活気のないまちになっていたら寂しいですね。疑問に思っていたことが解消されました！ 坂ノ上さん、ありがとうございました。

《編集後記》

輝かしいまちの未来を楽しみに、本年もまちの魅力をお伝えしていけるよう、頑張っ参ります。よろしくお願いたします。



レスリングで世界を目指す！

▲ 11月22～24日に台湾で開催された、レスリングの「U-15 アジア選手権大会」54kg級で優勝した池畑 菜々さん（15歳・つつじが丘）が町長を訪問し、大会の成績を報告しました。池畑さんは、「初めての国際大会で緊張しましたが、いい成績が残せてよかったです。これからも国内外の大会で結果を残し、将来はオリンピックに出場したいです。」と力強く抱負を語りました。

町の未来について高校生が考える



▲ 11月22日、文化体育館で「第4回猪名川町の未来を描く高校生フォーラム」を開催しました。県立猪名川高等学校と猪名川甲英高等学院の生徒6組36人が「あなたがもし町長だったら」をテーマに企画提案を実施。猪名川高校の生徒によるレンタサイクルを使い、自然豊かな猪名川を満喫する案や、猪肉を観光資源に取り込む「猪観光」が優秀賞となりました。

また、防災をテーマに楽しく過ごしやすい避難所や講演会の実施を提案した甲英高校の生徒による「知識を学び、命を救おう」が、町長賞を受賞。来年度の町事業として、実現に向けた検討を進めていきます。

地域の活性化に向けて

▶ 12月5日、町役場で「猪名川町とネットヨタ神戸株式会社との包括連携に関する協定締結式」を行いました。

連携事業の第一歩として、来年度より住民の移動手段の充実に向けた「デマンド交通導入実証実験」に取り組みます。



寒さに負けず、ゴールを目指して



▲ 12月15日、松尾台小学校周辺で「第47回猪名川町彫刻の道マラソン大会」が開催されました。当日は天候にも恵まれ、885人の参加者はゴールを目指し、力走しました。

みんなで食べるとおいしいね！



▲ 12月17日、大島小学校で「世代間交流会給食でつなぐいながわの輪」を開催しました。参加した19人の地域の皆さんは、「半世紀ぶりの給食や！」などと言いながら、小学生と一緒に給食を食べ、楽しい時間を過ごしました。

このイベントは、「第3回猪名川町の未来を描く高校生フォーラム」で町長賞を受賞した猪名川高校生の発案によるもので、本年度、町主催事業として実施しました。

香り高い「新そば」！



▲ 11月30日と12月1日の2日間、道の駅いながわで「新そばまつり」が行われました。2日間で約6千人が訪れ、秋に収穫されたばかりのそばの実を使った「新そば」に舌鼓を打ちました。

みんなに元気を与えたい



▲ 11月23日、文化体育館小ホールで「いながわのみんなで楽しむアートフェスタ」を開催しました。

このイベントでは、「皆さんに元気になってもらいたい」という思いを込めて、障がいのある人たちが、楽器の演奏やオリジナルの紙芝居などを披露し、会場を訪れた約120人は楽しい時間を過ごしました。

▶ 12月6～8日に茨城県つくば市で開催された「第7回科学の甲子園ジュニア 全国大会」に猪名川中学校科学部（右写真）が白陵中学校（高砂市）とチームを組み、兵庫県代表として出場しました。

各都道府県の代表として出場した282人の中学生が、筆記・実技（実験・工作）で競い合う本大会。兵庫県代表は総合成績10位、実技（実験）5位入賞、特別賞としてSHIMADZU賞（チームワーク賞）を受賞しました。

ふおとにゅ～す

犯罪のないまちへ



▲ 11月21日、イナホールで、暴力団のない犯罪のない住みよいまちづくりを目指すため、「安全・安心まちづくり川西市・猪名川町住民大会」を開催。本大会では、特に地域の安全・安心の確保に貢献した警察官に贈る「警察官表彰」が行われ、本町からは川西警察署勤務の青木 敬司巡査部長に表彰状を贈りました。

また、警察官から特殊詐欺被害に遭わないための対策を学ぶ講演や県警音楽隊の演奏が行われるなど、参加者は改めて防犯について学び・考える1日となりました。

科学の甲子園ジュニアで健闘！

